



食器

高齢者施設では扱いやすいプラスチック製食器が選ばれることが多いですが、ご家庭の食卓同様の食事提供を目指しているアウルでは、陶器やガラスが主体です。

湯飲みは柄が4種類あり、どの柄になるかという楽しみもあります。特に、ファンが多いのがアウル喫茶で活躍しているカップとソーサーです。実はこれらは武田施設長のコレクションで



デザインや柄も多彩。毎回どの柄になるか楽しみにされている入居者様もいらっしゃるほどです。

一方で、ラーメン丼はプラスチック製を選択。食器としての機能を優先した結果です。軽いのので丼を持ち上げてスープが飲み、のどごしも味わうことができます。食器はアウルの食事をより美味しくしてくれる名脇役なのです。



▲受付業務ではなく受付の椅子に関心があるリリこ

スタッフ リレーエッセー

1年経ちました

初めまして。介護職員の川口です。アウルコート真駒内に入社して、早いもので1年が経ちました。

介護の仕事に携わって約10年。たくさんの方との出会いがありました。楽しいこと、悲しいこと、辛いこと、いろいろありましたが、すべてが自己成長に繋がり、今もまだ勉強中の日々です。入居者様お一人おひとりに寄り添ったケアを考えるのは大変ですが、それにより入居者様の笑顔を見られたり、状態が良くなったりするので、やりがいを感じます。

これからもアウルコート真駒内の皆様が、笑顔で安心した生活を送れるよう支援していきたいと思っています。



介護職員 川口 恵

●介護付有料老人ホーム(一般型特定施設入居者生活介護)

アウルコート真駒内

〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3
TEL.011-588-1122 FAX.011-588-1133
入居相談受付中 ☎0120-916-768

- 交通機関
- 地下鉄南北線「真駒内」駅下車
 - じょうてつバス「真駒内駅前」停で真駒内線に乗り(約5分)「南町4丁目」下車(徒歩約4分)

アウルコート真駒内 検索 <http://www.owlcourt.jp>



ふくろうの家 だより

その75
2026年4月

●発行/株式会社私の青い空
●編集/アウルコート真駒内広報室 〒005-0016 札幌市南区真駒内南町4丁目5-3 ☎011-588-1122



新年度に思う

代表取締役 武田 治信

令和8年4月になりました。北海道は長い冬の季節が終わり、木々が新緑を纏い、桜が美しく咲き誇る時期です。二十四節季では、5日から、すべてのものが生き生きとして清らかに見える「清明」を迎え、20日からは、種まきや田植えになくはならない百穀を潤す「穀雨」降る季節へと移っていきます。いよいよ胸躍る春真っ盛りの頃となります。

4月には昭和の日という祝日があります。もともと「天皇誕生日」として親しまれていた4月29日は、平成になってから「みどりの日」となり、平成17年の祝日法改正で「昭和の日」と改められました。昭和は1926年12月25日に始まり、今年で100年目を迎えるということで、来たる4月29日には日本武道館で昭和100年記念式典が挙行されるとのことです。

今から100年前の1926年は、豊田佐吉が豊田自動車の母体である豊田自動織機製作所を設立した年でもあります。貧しい農家に生まれ、母親が手織り機で苦勞するのを見て、新しい織り機の発明を志し、生涯を通じて119件の発明品を残したという逸話は広く知られたところ。また、佐吉は数々の名言も残しています。曰く「諦めなければ必ず道は開ける」「志を立てた以上迷わず一本の太い仕事をすればいい」「障子を開けてみよ、外は広い」などなど。そのいずれもが、フロンティア精神に富み、多くの若者の道標となってきました。

今年、スピードスケートの高木美帆選手が引退を表明しました。限界超えに挑み続けたその後ろ姿に佐吉の言葉が重なり、思わず労いの言葉をかけていました。

●2025/12/10(水)

クリスマスツリー点灯

レストランに大きなクリスマスツリーがお目見えし、入居者様と職員でオーナメントを飾りつけ。電飾をとす点灯式では、点灯後に全員で「きよしこの夜」を合唱。年の瀬のクリスマスムードが高まりました。



●2026/1/11(日)

特製のお餅で鏡開き

鏡開きの日のおやつはおしるこ。アウルの厨房特製のお餅が美味しいと評判です。豆腐入りでつるりとのどを通るのに、お餅らしい食感があります。ご入居されたばかりの方が「お餅が食べられる!」と喜ばれていました。



●2026/2/5(木)

施設内で不在者投票

不在者投票指定施設のアウルでは、届出などを事前に行うことで、入居者様は居ながらにして期日前投票ができます。急に決まった2月8日の衆院選挙は普段より準備が大変でしたが、無事実施。8名が投票されました。



節句に込められた願いに思いを寄せて 昔ながらの節分を丁寧に



マンツーマンで鬼に豆まき

▲起きられない方には鬼がベッドサイドへ

着しました。今年の十干十二支は60年に1度の丙午。強い火の気を持ち、エネルギーも運気も強力で、大きな変化が生まれる年といわれています。パワーが強いぶん厄払いも丹念に行おうと、職員扮する2匹の鬼がたっぷり時間をかけて各部屋をまわりました。



節句の意義と環境によるケア

「環境がケアをする」という考え方を重視しているアウルでは、節分のような季節の行事をとっても大切にしています。無病息災

を願う伝統的な行事は、医療がまだ発達していなかった時代に、祈り寄り添うことで心身を癒やした初源的なケアのかたちでもあります。



病気と違い、治すものではない加齢。齢を重ねるほどに、息災への祈りが日々の生活を穏やかに彩ってくれることを、職員は入居者様から学びました。

賑やかな季節のレクリエーションではなく、願いを込めるひとときとなったアウルの節分。今後も四季折々の風物詩を丁寧に採り入れながら、環境を整えケアの質を高めていきます。



今年も鬼がお部屋を訪問

今年の節分は2月3日(火)。多人数で集まることを避けたコロナ禍を機に、アウルの節分は、レストランに集まって豆を投げ鬼を追い払うスタイルではなく、鬼が入居者様の部屋を訪ね、豆を投げつけてもらう訪問型になりました。

やがてはワイワイと賑やかな豆まきに戻ると思われていましたが、訪問型のほうが入居者様お一人おひとりに向き合えることがわかり、現在のスタイルが定